

旧大塚酒造活用構想

5月2日、商業集客施設整備検討委員会(委員長・中村静雄商工会長)より、旧大塚酒造の施設活用について、調査報告書が提出されました。

検討委員会は、昨年8月から有効的な活用方法を、調査・検討してきた結果、歴史的建造物を維持保存し、まちなかが賑わうような、ガラス工房・陶芸工房などの体験施設や、地元の食材を利用した飲食施設などに活用するよう、提案されました。



▲報告書を提出する中村委員長

東京家政学院と協働へ



4月24日、学校法人東京家政学院(東京都・山口孝理事長・写真右から2人目)と地域活性化に向けた、産学官協働の取り組みとして、連携協定を締結しました。

東京家政学院の専門的な知識や情報と、市の地域情報を共有し、地元産品の開発など、新たな地域活性化に取り組んでいきます。

また、新しい農作業着や、坂東野菜を生かした料理の提案などを通して、学生さんとの交流も積極的に進めていきます。

ばんどう まちづくり

坂東市長 吉原英一



歴史的産業遺産を活かした
中心市街地の
活性化にむけて

バブル経済の破綻から「失われた20年」という長きにわたる景気が低迷するなか、大規模店の進出などにより、商店街の活気が失われていく現状にあります。

このような中、まちが元気になるように、ばんどうホコテンやイルミネーション等の各種イベントを開催し、市街地の活性化にむけて事業を実施しています。

さらに、市内唯一の酒造事業所でありました大塚酒造の廃業に伴い、集客施設として整備するため、平成23年12月に醸造蔵を含め用

地を買収いたしました。

大塚酒造は、岩井モール商店街から狭い路地に入った奥にあり、約7千700平方メートルの敷地には、明治28年建造の醸造蔵をはじめ、同時期に建造された母屋、レンガ製の煙突などの歴史的に貴重な建造物や、ケヤキ、クスの巨木や丹波栗の木も残っています。

これらの歴史的遺産を活用するため、商業集客施設整備検討委員会、中心市街地への集客マグネット施設とするべく活用案について調査・検討を行っていた

ことができました。調査報告書には施設の活用構想として、「歴史的建造物の維持保存と景観形成」、「まちなかへの賑わいを創出する施設としての活用」、「来訪者のニーズに対応した価値創造」などが盛り込まれています。

具体的な活用案としては、「体験工房」、「地元食材を活用した飲食施設」、「地元産品や農産物の物販施設」、「市民活動の場としてのコミュニティ施設」、「観光

インフォメーション施設などが示されていました。施設改修につきましても、高い技術力及び豊富な経験を有する設計者から想像力豊かな提案をいただくため「公募型設計提案」による方式の採用。また、運営主体につきましても、市内事業者や市民自治体からの出資による株式会社形態の「まちづくり会社」による運営が望ましいとされています。

提出された調査報告書を踏まえ、今後は市民の皆さまをはじめ、議会、並びに歴史的建造物に関して識見を有する方々に意見を伺いたいと思います。そのうえで、県自然博物館に来場される年間約40万人の方々や新たな周遊観光客を中心市街地へ呼び込むとともに、市民の憩いの場となりうるプラットフォームとしての役割を担い、中心市街地の活性化の核となる施設として整備できまよう引き続き検討を重ね整備を行う考えでございます。市民の皆様のご理解とご協力を重ねてお願いいたします。